

JOYO BANK NEWS LETTER

平成 30 年 2 月 15 日

株式会社 常陽銀行

「常陽 大地と海の成長支援ファンド」による第 3 号案件への投資決定について

常陽銀行（頭取 寺門 一義）と株式会社常陽産業研究所（取締役社長 茅根 務）は、このたび、株式会社農林漁業成長産業化支援機構（代表取締役 光増 安弘）との共同出資により設立した 6 次産業化ファンド「常陽 大地と海の成長支援ファンド」の第 3 号案件として、株式会社トウスイへの出資を決定しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

本件は、我が国の中でも重要な水産拠点である波崎・銚子漁港において水揚げされるサバ・イワシ等を冷凍加工する最新鋭の設備（投資総額約 2,600 百万円）へ出資するもので、「ちば農林漁業 6 次産業化ファンド」との共同出資となります。本ファンドを通じ、円滑な資金供給を行うことで水産業の発展と地域経済の活性化を支援します。

常陽銀行グループは、今後とも、6 次産業化による新事業創出・付加価値の創造に向けて、コンサルティング機能を発揮するとともに、お客さまの資金調達ニーズにお応えしてまいります。

記

【投資案件の概要】

投 資 先 名	株式会社 トウスイ
代 表 者	代表取締役 石田 和芳
所 在 地	茨城県神栖市波崎 8232 番地 8
設 立 日	平成 29 年 11 月 9 日
事 業 内 容	冷凍サバ・イワシ等の国内外への販売事業
投 資 金 額	100 百万円
投資実行予定日	平成 30 年 3 月 20 日
企 業 の 概 要	・ 同社は、茨城県の漁業会社である株式会社石田丸漁業（代表取締役社長 石田 和芳）、水産物加工会社である株式会社津久勝（代表取締役社長 津久浦 裕之）、東証一部上場の東都水産株式会社（代表取締役社長 江原 恒）が合併で設立した 6 次産業化事業体です。 ・ 波崎地区において漁場から冷凍加工、販売（輸出含む）まで一貫した流通体制を構築することにより、同地区の水揚量増加のみならず、水産関連業者の所得向上、地域の発展及び活性化に貢献することを目指している企業です。



常陽銀行



常陽銀行

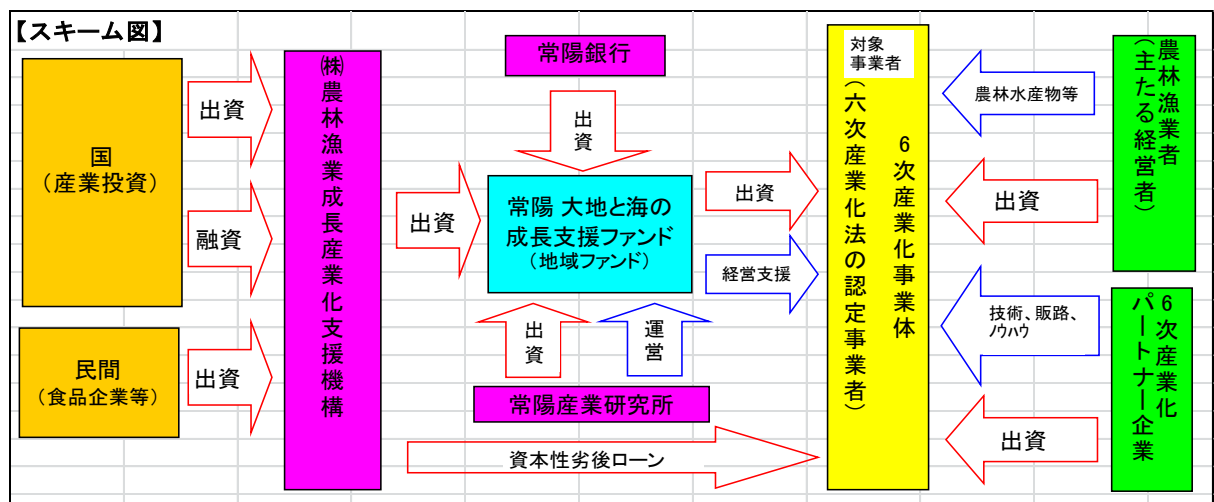
〒310-0021 茨城県水戸市南町 2-5-5

Tel. 029-231-2151 (代表) www.joyobank.co.jp

(ご参考)「常陽 大地と海の成長支援ファンド」の概要

名 称	常陽 大地と海の成長支援ファンド投資事業有限責任組合
設 立 日	平成 25 年 11 月 1 日
投 資 対 象	六次産業化法の認定を受けた 6 次産業化事業体で、6 次産業化事業体を構成する農林漁業者または商工業者のいずれかもしくはその両方の営業拠点（本店含む）が当行の営業地盤内にある先
ファンド総額	10 億円
存 続 期 間	15 年（投資期間 10 年）
運 営 事 業 者	株式会社常陽産業研究所
出 資 者	株式会社常陽銀行 株式会社常陽産業研究所 株式会社農林漁業成長産業化支援機構（A-FIVE）

※6 次産業化…1 次産業である農林漁業者が、その生産だけにとどまらず、加工食品の製造・販売（2 次産業）や小売・観光農園地など（3 次産業）に取り組むことで、新たな付加価値の創造につながるとした考え方。



以上